

富津市献血推進協議会会議録

1 会議の名称	平成30年度富津市献血推進協議会
2 開催日時	平成30年4月19日(木) 午後2時00分～午後2時30分
3 開催場所	富津市役所 4階 401会議室
4 審議等事項	(1) 平成29年度富津市献血推進協議会 事業実績報告について (2) 平成30年度富津市献血推進協議会 事業実施計画(案)について
5 出席者名	献血推進協議会委員(13名) 高橋恭市、島津 太、大嶋英二郎、熊切 篤、 中山史生、相澤靖司、森田 久、杉本秀幸、 福原好子、望月裕里、鹿島 榮、大野泰代、 岩崎 脩 千葉県赤十字血液センター(2名) 推進課長 伊藤基之、推進課主事 北村俊貴 事務局(3名) 健康づくり課長 下間節子、 健康づくり課 係長 鹿島亜希子、 健康づくり課 主任主事 吉村 直
6 公開又は非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部非公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 非公開の理由	富津市情報公開条例第23条第 号に該当
8 傍聴人数	0人(定員10人)
9 所管課	健康福祉部健康づくり課 電話 0439-80-1268
10 会議録(発言の内容)	別紙のとおり

平成30年度富津市献血推進協議会会議録

発言者	発言内容
<p>下間課長 (事務局)</p>	<p>平成30年度富津市献血推進協議会の開会を宣言</p> <p>本日の会議が16名のうち、出席委員13名、欠席委員3名で、会議が成立することを報告</p> <p>会議の公開について説明</p> <p>本日は傍聴人はいない。</p> <p>出席委員、千葉県赤十字血液センター職員及び事務局職員の紹介</p>
<p>会長 (市長)</p>	<p>会長挨拶</p>
<p>君津健康福祉センター 大嶋副センター長</p>	<p>千葉県君津健康福祉センター副センター長挨拶</p>
<p>血液センター 伊藤推進課長</p>	<p>千葉県赤十字血液センター推進課長挨拶</p>
<p>下間課長 (事務局)</p>	<p>議事進行が、協議会設置要綱第6条により会長であることを説明</p>
<p>議長 (市長)</p>	<p>議長を務めさせていただく。</p> <p>会議録署名委員の指名</p> <p>指名は会長一任でよろしいか。</p>
<p>委員一同</p>	<p>異議なし</p>
<p>議長 (市長)</p>	<p>会議録署名委員は、森田委員と福原委員を指名</p> <p>次第4、議題に入る</p> <p>議題(1)平成29年度富津市献血推進協議会事業実績報告について、事務局の説明を求める。</p>
<p>鹿島係長 (事務局)</p>	<p>資料により説明 (説明要旨)</p> <p>平成29年度富津市献血推進協議会事業実績報告</p> <p>400ml 献血 996人 200ml 献血 34人 合計 1,030人</p> <p>39会場で実施</p>

議長（市長）	質問があればお願いしたい。												
委員一同	特になし												
議長（市長）	<p>質問ないため承認としたい。</p> <p>議題（２）平成 30 年度富津市献血推進協議会事業実施計画（案）について、事務局の説明を求める。</p>												
吉村主任主事（事務局）	<p>資料により説明 （説明要旨）</p> <p>平成 30 年度富津市献血推進協議会事業実施計画（案）</p> <p>平成 30 年度献血目標</p> <p>県目標</p> <table border="0" data-bbox="526 840 1420 896"> <tr> <td>400ml 献血</td> <td>590 人</td> <td>200ml 献血</td> <td>30 人</td> <td>合計</td> <td>620 人</td> </tr> </table> <p>市目標</p> <table border="0" data-bbox="526 929 1420 985"> <tr> <td>400ml 献血</td> <td>1,031 人</td> <td>200ml 献血</td> <td>30 人</td> <td>合計</td> <td>1,061 人</td> </tr> </table> <p>平成 30 年度事業計画</p> <p>延べ 39 カ所で実施予定</p>	400ml 献血	590 人	200ml 献血	30 人	合計	620 人	400ml 献血	1,031 人	200ml 献血	30 人	合計	1,061 人
400ml 献血	590 人	200ml 献血	30 人	合計	620 人								
400ml 献血	1,031 人	200ml 献血	30 人	合計	1,061 人								
議長（市長）	質問があればお願いしたい。												
委員一同	特になし												
議長（市長）	<p>質問ないため承認としたい。</p> <p>続いて次第 5、千葉県の献血状況について説明いただく。</p>												
血液センター 伊藤推進課長	<p>千葉県の献血状況について</p> <p>千葉県においては、輸血用血液製剤の需要が高い状況が続いている。昨年は延べ 825,085 単位（対計画比 107.8%）であった。</p> <p>この需要に対応するために、県内の献血ルーム 6 か所と移動採血車 10 台において、延べ 219,873 人（対計画比 97.4%）という多くの方にご協力いただくことができた。血液センターとして取り組んだ主な活動では、献血ルームにおいては年中無休で稼働し、各種キャンペーンや呼びかけ活動の強化、また複数回献血クラブ会員様への協力依頼のメール配信、直接電話にて協力をお願いをするなど献血者の増加に取り組んだ。</p> <p>移動採血においても、各ボランティア団体様への協力依頼とあわ</p>												

せて新規事業所の開拓等に取り組み、献血者の確保に取り組んだ。

その結果、400ml 献血と高単位血小板成分献血が増加したことで献血量としては増加することができた。しかしながら輸血用血液製剤の製造単位数は供給単位数には及ばない残念な結果になっている。

次に輸血用血液製剤供給状況について、赤血球製剤では平成 27 年は計画数より 6,237 単位少ない結果であったが、平成 28 年においては計画より約 14,000 単位の増加、平成 29 年においては約 17,000 単位の増加となっており、3 年間の供給実績を見ると年々増加している傾向にあることが見てとれる。

また、血小板製剤も同様の傾向である。平成 29 年度の赤血球製剤と血小板製剤については過去最高の供給数となっている。

一方で採血、献血の方は、400ml 献血が対計画比 102.8%で対前年増減数は 4,647 人の増、200ml 献血は対計画比 87%で前年より 2,856 人の減、血漿成分献血は対計画比 81.8%で前年より 1,759 人の減、血小板成分献血は対計画比 97.7%で前年より 637 人の増となっており、合計では対計画比 97.4%、トータル 669 人の増加であった。この結果を供給数との対比、つまり輸血用血液製剤の使用量分の血液が確保できているかどうかあるが、400ml 献血は 8,200 単位の不足、200ml 献血はプラス 842 単位、血漿成分献血もプラス 10,704 単位、血小板成分献血は 19,950 単位の不足、トータルでは 16,610 単位の不足となっており、輸血用血液製剤の製造数と供給数のバランスが残念ながらとれなかったという結果であった。

血液センターとしては、この血液の使用量分を過不足なく確保することが使命となっている。皆様のお力をお借りしながら今後も努力していかなければならないと考えている。

次に年代別献血状況について。

千葉県では 10 代から 30 代の献血者数が減少しており、10 年前に比べると 37%減少している。これは全国的にも同様である。赤十字血液センターとしては、将来の献血基盤となる若年層の方々にご協力いただくために大学、専門、高等学校における献血の実施の推進や献血セミナーの開催、また千葉県学生献血推進協議会のメンバーである学生による同世代への献血啓発や献血ルームにおける職場体験や献血キャンペーンを展開し、献血の普及啓発を実施して若い方々の献血者増加につなげたいと考えている。

次に平成 30 年度供給計画と献血目標について。

供給計画数ですが、近年の県内の医療機関の状況と輸血用血液製剤の需要動向や輸血用血液製剤の供給予測数及び国から割り当てられている原料血漿確保目標量を基本として作成されている。献血目標量は供給計画に見合う分というところで高単位献血を中心として策定され、平成 30 年 1 月 30 日の千葉県献血推進協議会において、供給計画数は 814,000 単位で献血目標数は 229,736 人と決定されている。平成 29 年の目標数と比べると 200ml 献血は 1,222 人の減、血漿成分献血は 2,226 人の減、血小板成分献血は 1,695 人の減となっているところ、400ml 献血だけが 9,058 人の増となっており、平成

29年に比べプラス3,915人、対需用比101.7%の増となっている。

このように今後献血ルームならびに移動採血車におきましては400ml献血の協力者数の増加を図らなければならない。

皆様のご理解のほどよろしくお願いいたします。

次に古いデータにはなるが、東京都福祉保健局の2015年のデータです。現在も大きな差はないと聞いているが、輸血用血液の使用量全体の中での多くは、がんや白血病などの病気の治療に多く使われている。次に循環器系の病気、またその次に消化器系の病気となっている。一般的に多くの方は交通事故で血液を使用するというイメージがあるが、実際には全体の2~3%程度で、大半は病気によるものとなっている。従って高齢になると誰でも血液を使用する可能性があると考えられる。また、このような病気の治療では一度で数人分の血液を使用したり、1ヶ月に一度という定期的な輸血が行われている。一人の患者さんの命を何人もの献血者で支えるというようなところとなっている。また、血液には有効期限があり、長期保存することができない。移動採血車で皆様にご協力いただいている400ml献血、200ml献血から製造される赤血球製剤は、採血後21日間、また一番短いもので血小板製剤は採血後4日間と非常に短い有効期限となっている。血液は科学が発達した現代においても人工的に作ることができない。献血は献血間隔等の問題もあり一人の方から短期間に何度もいただくことができない。従って日々、計画的な献血の協力が必要だということが重要になっている。

移動採血車が伺った時には出来るだけ多くの方にご協力をお願いしたい。

議長（市長）

何かあれば質問をお願いしたい。

委員一同

特になし

議長（市長）

以上で本日の会議を終了する。

下間課長
（事務局）

平成30年度富津市献血推進協議会の閉会を宣言